

「目白大学経営学研究」執筆要領

(総則)

第1条 紀要への投稿論文の執筆は本要領に従う。論文以外の投稿原稿もこれに準じるものとする。

(投稿論文等の言語)

第2条 投稿論文の言語は日本語または英語のいずれかとする。

(投稿論文の書式)

第3条 投稿論文は横書きとする。

2. 投稿論文等はワードプロセッサにより作成する。日本語による投稿論文は、A4 版用紙に 1 枚 42 字×41 行=1,722 字とする。英語による投稿論文は、1 枚 500words を目安として作成する。

(投稿論文等の枚数・形式)

第4条 投稿論文の枚数はワードプロセッサ原稿で 10 枚以下とする（本誌刷り上り 10 ページ以内となり、合計で 17,220 字が上限となる）図、表、英文アブストラクト、日本語要旨に要するスペースもこれに含める。図や表は論文の本文中にそのままの形で入力し配置しておくこと。英文の論文の場合にも、ワードプロセッサ原稿で 10 枚以下とする。

原稿のタイプにより、紀要編集委員会が妥当と認めた場合、前項の枚数を超えることができる。

2. 論文要旨、キーワードを付ける。

論文要旨は日本語 420 字（10 行）、英語 150words 程度。キーワードは 5 語程度。

(投稿論文等の表記)

第5条 日本語による投稿論文は新仮名遣い、常用漢字を用い、平易な口語体で記す。

漢字については、専門語はこの限りではない。副詞、接続詞、連休詞、助詞は原則として平仮名、同音多義で誤読のおそれのあるものは漢字、送り仮名は活用語尾を送る。

数字の書き方は、原則としてアラビア数字を用いる。成語・慣用語・固有名詞、数量的意味のうすいものは漢字とする。例えば、一般的、一部分、第三者などである。ただし 19 世紀、第 1 四半期などは例外とする。

英語による投稿論文も自然で正確な表現を用い、ネイティブスピーカー等の校正を受ける。

2. 本文は章節項などで構成し、“1.”、“2.3”、“4.5.6”のような見出し番号とタイトルをつける。

3. 表題の脚注

3.1 学会等に発表している場合には、本論文は、学会名、講演会名、発表日、場所、において発表した、というように注記する。

3.2 原稿受理日は、紀要編集委員会の指示に従う。

4. 脚注

注記の一連番号を参照箇所の右肩に書き、注記そのものは、本文の最後の一連番号を付けてまとめる。

5. 人名

原則として原語で表記する。ただし、広く知られているもの、また印字の困難なものについてはこの限りではない。

6. 数式・数字

別行に記し、末尾に通し番号を付ける。数字はアラビア数字で横書きし、三桁ごとにコンマ（,）をつける。

7. 文献の引用

文章の一部に引用文献の著者名を含む場合は、著者名、続いて文献の発行年「 」で囲む。

文章の外で文献を引用する場合は、著者名、発行年度を「 」で囲む。同一著者、同一年度の文献を複数個引用する場合は、発行年度のつぎに a, b, …と一連の記号を付ける。

8. 図・表

図および表(写真を含む)には“図1”、“図2”、“表1”、“表2”のように通し番号を付ける。投稿原稿は正確にパソコン等の用器を用いて、そのまま写植して版下に使えるように書く。

(参考文献)

第6条 文中で参照する文献および特に関連ある文献のみを、本文末に一括してリストする。

2. 参考文献のリストの順序は、欧文和文を区別せず、原則として第4項の方式で配列する。

3. 単行本の場合は、著者名、発行年、表題、発行所をこの順で記す(ただし、欧文書については、発行所の前に発行地を記す)、表題をイタリックにする。

また雑誌論文は、著者名、発行年、表題、雑誌名、巻号、ページをこの順に記す。表題、書名および雑誌名等は略記しない。雑誌名をイタリックにする。

4. 参考文献の配列は著者の、あるいは第1著者の姓によってアルファベット順にする。下にその例を示す。

(和書の場合)

浅沼萬里, 1997, 『日本の企業組織 革新的適応のメカニズム』 東洋経済新報社

Palepu, K.G., V.L.Barnard and P.M.Healy, 1996, *Introduction to Business & Valuation*. South-Western. 斎藤静樹監訳, 筒井知彦, 川本淳, 村瀬安紀子訳, 1999, 『企業分析入門』 東京大学出版会。

(洋書の場合)

Horngren, C.T., G.Fostrer, and S.M.Datar, 1997, *Cost Accounting-A Managerial Emphasis, 9th edition, Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall.*

(和雑誌の場合)

佐藤紘光, 2000, 「企業の投資行動と業績評価」 管理会計学 8(1)・2: 17-31.

(洋雑誌の場合)

Fisher, J.G., J.R.Frederickson, and S.A.Peffer, 2000, Budgeting: an experimental investigation of the effects of negotiation, *The Accounting Review* 75(1): 93-114.

(別刷)

第7条 抜き刷りについては、50部を無償で執筆者に贈呈する。51部以上の場合は、別刷り代金は、その実費を徴収する。